

現場に出る人道援助を

新世紀展望

そこが聞きた



緒方さんは一九九一年、国連難民高等弁務官に就任、昨年末の退任まで重責を果たされました。この十年を振り返って難民問題をどう見ていらっしゃいますか。

難民は世界の歴史の上でも、国際政治の上でも非常に深刻な問題になりました。大量の難民が急に難民時代に入ったのです。もともと難民保護というのは、国家間の紛争や一つの中での内政や迫害によって逃げてきた人を国境の外で受け入れる。それが私たちの任務でした。五十年前にUNCHR(国連難民高等弁務官事務所)が設立された時は、旧ソ連や東欧の社会主義国圏から西側に出てきた個人個人を対象に保護を施す体制だったんです。

その東西冷戦が終わったのに、難民は減るどころかどんどん増えていきましたね。

米ソの「重し」が消えたために国内の歴史的・民族的対立が表に噴き出したのです。さらにソ連のような連邦国家が崩壊し、国際的な国境と連邦の下にある国内の国境との混同が起きました。旧ユーゴスラビア、難民の時に表面化しましたが、同じ難民でも、ある時点までは国際的な難民が、次の時には国内避難民になる。その逆も出ているように思います。

国境の外に逃れてきた人を保護するというのが難民保護の国際的な原則から言えば、国境の枠組みそのものが揺らいできたというわけです。

在任10年を振り返って

国境の問題で私が最初に直面したのは、イラクのクルド難民の時。国内の不安定化を懸念した隣国トルコが国境を開かず、クルド難民を受け入れなかったのです。そこでトルコと北イラクの国境の山沿いの人々たちをイラク国内の安全地帯で保護することが必要になりました。これは今までの難民保護の方針を大きく変えなければならず、決断するまでUNCHRの中でも大変な議論になりました。そういう状況に直面して、やはり国境というものを今後どう考えていくのか、国境を越えなければ援助できないという問題にどう対応するかという問題に直面しました。

人道援助する立場としては非常に厳しい局面に立たされた。アフリカ東部のソマリアでも、部族対立による紛争で政府が崩壊し、五十万人くらいの難民が隣のケニアに入ってきました。私どもはケニア側にキャンプを造って待っていました。国境を越えるまで助けてあげられないというのは矛盾じゃないか。結局、キャンプを国境の外に置いたまま中に入り、少しでも早く逃げてくる人たちに支援を与える「クロス・ボーダー・オペレーション」と呼ばれる事業を行ったのです。紛争の形態によって以前とはかなり違った保護をするようになりまして。やはり私は、人間の命を助けるということがこの本質的な原則だと考えたのです。

「行動する弁務官」と言われた緒方さんは、紛争を各国の現地に出入

紛争の形態で以前と違う保護が必要になりました

- ▲ ザイル・ブカブ地区の難民キャンプでルワンダ難民の子供たちから歓迎される緒方さん=1995年2月(UNHCR提供)

緒方 貞子さん

向き、常に難民の傍らにいらっしや
った。

確かに私ももの職員はいつも現場
にいます。それは非常に大事なこ
とです。現場から遠く離れたところ
で法的な保護だけ唱えて「あなたほ
けしからん」とただ政府に言っ
てもしかたがない。政府ができない

- ▼ 国連難民高等弁務官に就任した直
後、クルド難民の救援活動でイラン
を訪れた時の緒方さん=1991年4月
(UNHCR提供)



ていませぬ。難民問題の解決も同
時に政治とは切り離せない。しか
し、現実問題としては大変難しい部
分があると思います。

それは、旧ユーゴスラビア難民の
時が一番難しかったと思います。ユ
ーゴ崩壊とともに大量の難民や国内
避難民が発生しましたが、そこには

中で、場所によってはセルビア側
が輸送を妨害したり、物資を没収
されることもありました。ボスニ
アの首都サラエボで、イスラム系
の負傷者を治療のために国外へ連
れ出そうとする、セルビ側も同
じ数だけ連れて行け。そういう
交渉は絶えずありました。

人道支援は、危険と背中合わ
せなんです。最近もインドネシ
アの西ティモールやキニアで相次
いでUNHCRの職員が殺害され
る悲惨な事件が起りました。

もう少し早く平和維持軍などが立
ち上がったければという思いがあり
ます。ボスニアでも私も一九九
二年の初めから活動してしまっ
たが、七千人の平和維持軍が来たのが
秋。紛争が一番激しい時に安全を確
保する人たちはいなかった。アフリ
カのルワンダ難民の時もキャンプを
張ったザイール(現コンゴ)に平和
維持軍が入らなかつた。そこは難民
キャンプそのものが戦乱の地で、
逃げ回る難民を集める仕事はUN
HCRやNGO(非政府組織)な
どの人道機関がやっただけです。危
険だから放り投げていいかといっ
た、できる範囲のことがあるなら
人命救助しないわけにはいかな。
やはり現場の秩序を保てるだけの
軍隊とか警察の出動が早くできる
ような体制を望んでいます。

こともあるし、紛争当事者である
場合もある。現場において、実態を
見て難民の側に立って交渉するしか
ないのです。そうすると、矛盾する
いろんな立場のグループから頼りに
されました。

難民が生まれるのは、すべて
は政治の所産であるとおっしゃっ

イスラム系、クロアチア系、セルビ
ア系とそれぞれの支援国家がある。
私どもは三者に対して政治的に中立
で、難民を対象にした事業だと主張
しましたが、実行に移すのはやさし
いことではなかつた。救援物資は三
民族平等に持つて行くことを趣旨
としていましたが、民族が混在する



▶おがた・さだこ◀ 1927年東京都生まれ。聖心女子大文学部卒。
カリフォルニア州立大大学院博士課程修了。国際基督教大助教授、
日本初の女性国連公使、上智大教授などを経て91年1月から2000年
12月まで国連難民高等弁務官。ユネスコ平和賞、マグサイサイ賞、
ソウル平和賞などを受賞した。夫の四十郎さんは71~74年に日銀岡
山支店長を務めた。岡山市出身の犬養毅元首相は曾祖父に当たる。

冷戦の終結とともに、世界各地で民族紛争などが頻発。大量の難民が生まれ、国際社会は対応に苦慮してきた。まさにこの激動の10年間に、国連難民高等弁務官として難民保護に取り組んできたのが緒方貞子さん。世界中の現場に駆け付け、時代に対応した難民支援の新たな枠組みをつくり、「小さな巨人」とも称された。昨年末で退任した緒方さんに、豊富な体験をもとにした新世紀の人道援助の在り方、日本の役割などを聞いた。

——国際問題で、われわれはとかく核軍縮とか目が向きます。しかし、難民を生み出す紛争の原動力になっているのは実は小銃や軽機関銃などの小火器だといつのは意外でした。

冷戦の緩和に伴い、核兵器の管理はかなり進んでいます。一方、小火器の方はいろんな軍縮の場に出てはいるものの、実際は野放し状態です。小火器を輸出している国は、国連安保理常任理事国全部のほかに、東欧の国々で民間にうまく転換できないでいる軍需産業からも流れて広がっています。これを何とか制限できないものか。アングラやシエラレオネ、コンゴといった紛争がなかなか解決しないアフリカの国は、いずれも反対勢力が武器を購入できるだけの、ダイヤモンドなどの鉱山を持っている。民族紛争のかけに資源紛争、お金の紛争がある。そうした鉱物を買っている西側先進諸国の在り方もずいぶん関係しているのです。

——紛争をなくしていくためにも、われわれはアジア・アフリカにもっと目を向ける必要があるのではないかと気がします。

欧米は植民地時代からの利害関係が強いために、アジア・アフリカに目を向け

介入してきた歴史があります。ただ、植民地支配国につけが十分に払われていないこともあって、植民地解放の時より悪くなっている国もある。政治力を持った人が経済も牛耳り、独裁支配をする。すると社会的に恵まれない部族とか、アンバランスが生じてくる。ルワンダ難民を生み出した紛争は、旧宗主国のベルギーが少数エリートを使って支配していた体制に対する社会革命がきっかけです。ヨーロッパの国は現在の混乱をもたらした要因はありますが、それと同時に何とか解決しなければという積極性はあるんです。

——日本ではまだ、アフリカは遠い国

関心が薄いのではないのでしょうか。

一月に森首相と一緒にアフリカへ参りました。アフリカにとっては日本に対する暗い過去がありませんし、いろいろな日本の優れた技術、経済力への尊敬があります。ですから、今のままで惜しいと思っただけです。もう少し政治的に紛争の解決やどういった援助をすればもっと一般の人に役に立つか。現地に日本人が入り、アフリカの人たちと一緒にものを考え、一緒に事業をす

紛争解決に向けて

るという体制ができれば、どんなに喜ばれるか。その余地はあると思うんです。

——米・インテル社のアンディ・グロブ会長はハンガリーの難民出身です。難民の中から世界のリーダーになった人もいます。単に被害者にとらえるのではなく、大きな可能性を秘めた人材がたくさんいると思います。

難民に対する政策が、お涙ちょうだいで、あるいはチャリティーと見られがちです。そうではなくて、難民の側に立つて何とか難民の将来があるようにするため、どう手伝わらいいか。もちろん

一番悲壮な時は物資や法的保護も必要ですが、どうしたら彼らに将来を与えられるか。議論した結果、重要なのは教育だという結論に達しました。UNHCR設立五十周年の記念行事として難民教育基金をつくることを決めたのです。教育を受けられれば、将来は有益な人材として自国に帰れるし、庇護(ひご)国に定住しても役に立ちます。

——コソボ難民の時は、ブリティッシュ・ユテレコム社が無料で電話を設置しました。IT(情報技術)革命も難民問題解決に活用できるのでは。

コソボの時は難民が国を出てきた際、身分証明証を焼かれたり、取り上げられたりして無証明者になっていました。その彼らの記録をマイクロソフト社の支援でコンピューターにデータベース化し、その場で写真を取って証明証をつくることができました。会社からみなさんボランティアで来られて手伝ってくれました。緊急事態の時、一番大切なのは情報身を守る時も、職員的安全も一番大事なのはコミュニケーション。ITの関係者からはいろいろな技術をいただきたいと思っています。



物質や法的保護もいりませんが重要なのは教育

▶UNHCR◀ 国連難民高等弁務官事務所。難民の保護と難民が抱える問題の恒久的解決を任務として、1950年12月の国連総会決議によって設立。スイスのジュネーブ本部をはじめ、世界120カ国に277の事務所を持つ。事業費のほとんどを各国政府からの拠出金に頼っている。54年と81年の2回、ノーベル平和賞を受賞。第8代高等弁務官・緒方貞子さんの後任としてルドルフ・ルベルス前オランダ首相が今年1月に就任した。

みんなと仲間になり経験持ち帰ると社会活性化にもいい



日本のUNHCRへの出資額は米国に次いで三番目ですね。日本に一人道大國になってほしいと言われてきましたが、現状はどうでしょうか。

日本がそういう方向を志向しているのではありません。でももうちょっとですね。出資も大切ですが、マスコミの注目を集めていない大事な問題もあります。そういう出資以外のものへの目配りも、人道大國としては必要です。さらに政治的な解決へも踏み込んでほしいと思います。日本は比較的中立的な国だけに、もっと積極的にいかければ効果が上がると思うのです。開発援助とのリンク(つながり)も必要でしょう。

それに日本人がもう少し現場にいってほしいと思います。いろいろなNGOも出てきているのですが、規模が小さいですね。何も一生で働いていただけたいとは思っていません。訓練を受けた人に何年か現場に行ってもらい、その経験を日本に持ち帰る。日本社会の活性化にも、現実的緊張を持つためにもいいことだと思いますね。

——「顔の見える援助」の実現もかわる話ですね。

日本は「顔の見えない援助」との批判をよく受けるわけですね。そのために援助物資の箱に日本と分かるマークを付けてほしい、といった要請はよくあります。それもいいんですが、やはりその現場に日本人がいないとだめなんです。日本は援助に随分お金を出しますが、欧米の人々に実施を頼むようなケー

日本と地域の役割

スも多い。それでは日本の貢献は目に見えませんか。

——現職首相によるサハラ砂漠以南のアフリカ訪問も、一月の森首相が初めてだったのです。

それ自身が本当はショックキックなことですね。首相自身はかなり積極的に難民キャンプで難民に話したり、いろいろと行動されたわけで、それで初めて顔が見えたのだと思いますよ。アフリカだけではなく世界中で、続けていってほしいと思います。日本では一九九〇年代は失われた十年」と言われているのですが、国内問題でがちがちですが、消費しているエネルギーがあまりに多いのではないですか。日本の生活程度、教育程度を考えればもっといい話です。

——そうした活動では、NGOにも期待がかかりますが…。

日本のNGOは、規模の問題のほか、専門性の問題もありました。そうした地域の活動は本当にうれしいことだと思います。国際貢献というのは参加なんです。何か物をあげるのではなく、みんなと仲間になるということですからね。

きなNGOが多く、資金力もあり、さまざまな面で活力が大いに入ります。アジアは日本だけ大きな全般的に、NGO活動を始めたのが遅いわけですが、アジアの中にもいろいろな問題が発生しています。朝鮮半島やカンボジア、タイやミャンマー、ティモールなどで、腰を落ち着けて行う大規模な援助が必要になりました。もっとアジア、太平洋地域の方々も動いていただける方が地域のためにもいいと思っただけです。そんなNGO活動を手伝わせてもらう狙いで、センターをつくったのです。訓練を行い、その人々を登録し、必要な時にすぐに出てきてもらう考えです。

——岡山市に本部がある国際医療ボランティア団体「AMDA」は世界で活動しています。地元地域が募金などで支援。「おみやぎ国際貢献NGOサミット」も毎年開催し、岡山県はNGOのネットワークを生かした人道援助の拠点を目指しています。

AMDAとは世界のいろいろな現場で一緒に働かせてもらいました。そうした地域の活動は本当にうれしいことだと思います。国際貢献というのは参加なんです。何か物をあげるのではなく、みんなと仲間になるということですからね。

——今後はぜひいっしょ活動に取り組まれるのでしょうか。

国連難民高等弁務官としての十年間を分析する本を英語で書いてほしいというご要望です。活動の速さは大変なものです。

——そんなNGOなどを対象にした研修・教育を行うのが昨年八月に設けられた「アジア・太平洋地域国際人道支援センター」(通称「セナター」)ですね。ヨーロッパやアメリカは、大

前国連難民高等弁務官

緒方 貞子さん

新世紀展望

そこが聞きたい

▶世界の難民◀ 出身国の外に逃れた難民のほか、国内避難民、紛争被災民など、UNHCRの保護・援助対象者は、2226万人(2000年1月現在)。緒方さんが関与した主な難民は、1991年の湾岸戦争直後にイラク北部のクルド人の反政府運動で生じたクルド難民▽91年から始まった旧ユーゴスラビア分裂から99年のコソボ自治州紛争までの間に流出した旧ユーゴスラビア難民▽90～94年に多数派フツ族と少数派ツツ族の内戦によるルワンダ難民一など。

聞き手 越宗孝昌・山陽新聞社編集局長